

課題改善カリキュラム【英語科・外国語活動】練馬区立大泉第二中学校・大泉第二小学校・大泉南小学校

課題 英語科の学習で、センテンスを使った会話が円滑に行われないことが多い。そこで、話す機会を豊富に取り入れ、コミュニケーション能力を育ませることが大切だと考えた。		研究テーマ 「話す」領域に重点を置いた児童・生徒のコミュニケーション能力の育成		
学習期	身に付けさせたい資質・能力	指導の工夫	カリキュラム改善の視点	
中学校	3年	・既習の言語材料を用いて、テーマについて問答したり意見を述べ合うことができるようになる。	・帯活動におけるペア活動、新出の言語材料を使ったアクティビティに加え、教科書本文を読み、感想や考えを伝え合う言語活動を充実させる。	・相づちの言葉に加え、つなぎ言葉や会話を発展させたりするために、相手に質問するなどの工夫をさせ、積極的に会話を継続し発展させていく態度や能力を育む。
	2年	・学んだ文法をコミュニケーションの中で実際に活用できるようになる。	・使用場面や言語の働きを考えて言語活動を行わせる。	・使用場面に適した相づちの言葉を用いて自然なコミュニケーションがとれるようにする。
	1年	・自分の気持ちや身の回りの出来事の中から簡単なセンテンスを用いて対話できるようになる。円滑に会話を成り立たせるためにリアクションを適宜使えるようになる。	・帯活動で実用的なセンテンスの練習をペアで行う。	・意識して実用的なコミュニケーション活動を繰り返し使うことにより会話に広がりをもたせ、考えながら相づちの言葉を使う。
小学校	6年	・自分の思っていることを英語で言ったり、相手の質問に英語で答えたりすることができるようになる。 ・簡単な相づち表現を会話に挟みながら、会話を継続させることができるようになる。	・単元を通して繰り返し必要なセンテンスの練習を行う。 ・簡単な相づちの言葉を黒板等に掲示し、視覚的に捉えやすくする。	・相づちの言葉を意識させて使わせることにより、会話につながりをもたせる。
	5年	・自分の考えを簡単な英語のセンテンスを使って言えるようになる。 ・会話を成立させるためのリアクションが使えるようになる。	・簡単な英語を用いて、自分の考えを伝えることができるように、アクティビティを通じて、慣れ親しませる。 ・簡単なフレーズを教室などに掲示したり、授業の導入でフラッシュカードなどを使い、慣れさせる。	・児童にとって、自然な場面設定をすることで、より興味・関心をもって取り組ませるようカリキュラムを設定する。
	4年	・自分の気持ちを簡単な英語を使って言うことができるようになる。	・簡単な英語を用いて、自分の気持ちを伝えることができるように、単語や英語表現に慣れ親しませる。	・児童が自分事として発話できる場面を設定することで、言いたいという気持ちをもって取り組ませるようする。
	3年	・自分の気持ちを簡単な英語を使って言うことができるようになる。	・簡単な英語を用いて、自分の気持ちを伝えることができるように、単語や英語表現に慣れ親しませる。	・児童が自分事として発話できる場面を設定することで、言いたいという気持ちをもって取り組ませるようする。
	2年			
1年				